

第 25 回 原子力損害賠償・廃炉等支援機構 廃炉等技術委員会 議事要旨

日 時 2018 年 1 月 18 日(木)14:30~16:30

場 所 原子力損害賠償・廃炉等支援機構(NDF) 第二大会議室

1. 廃炉等積立金の取戻しに関する計画の作成方針等について

NDF 事務局から、廃炉等積立金の取戻しに関する計画の作成方針等について説明した。

廃炉等技術委員からの主な意見は以下のとおり。

○取戻し計画の中で、長期的な人材育成、研究開発をどのように盛り込んでいくかについては、全体の枠組みとして考えておくべきである。

○取戻し計画作成方針には、中長期ロードマップ等に示された研究開発活動等を見据えた計画が作成されるべきことを明確に記載すべきである。

○プロジェクトが成功するかどうかは、ほとんどプロジェクトマネージャーの人選で決まる。プロジェクトを実施するに当たっては、プロジェクトマネージャーに当てる人材の固有名詞を挙げられるかが重要であり、社内に人材がいなければ、外部から導入する方法もある。

○プロジェクトマネージャーを置くだけではなく、プロジェクトマネージャーが何をするか、どうリーダーシップを発揮して判断するべきかについて、明確にしておかなければならない。安全文化についてきちんと理解した上で、ベストな判断をしていくリーダーシップが求められると考える。

○プロジェクトを進める際の必須の要件として、安全規制の遵守が非常に重要であることから、取戻し計画作成方針にはそのことを明示的に記載すべきである。

○東京電力側がプロジェクトマネージャーの人選を重要視して運営に取り組むのは当然として、NDF側としても、常に現場の話を聞きつつ、様々なテーマを吸い上げ、必要な支援を行っていくマネジメントの重要性に鑑みて、コ・プロジェクトマネージャーのような者を配置することが必要ではないか。

○取戻し計画作成方針において、NDFとして、「東京電力が、必要に応じて、将来的な研究開発を行うべき」こととしているが、地元の理解を得るという意味では、行う必要があるものであれば、色々な方向性を分かりやすく、かつ、事前に明示しておくことが非常に大事であることに配慮するべきである。

○汚染水対策や廃棄物対策、燃料デブリ取り出しといったプロジェクトは、それぞれに全然違う性格を有する。人類がいまだかつて経験したことがない燃料デブリ取り出しと今までも取り組んできた作業とを、画一的に議論しない方がよい。

○単純なプロジェクトでも、当初の予定どおりに進むことはまずない。廃炉のような過去に経験のない、手探りでやるプロジェクトにおいては、その都度軌道修正を行いつつ、起きた問題に対して対応しながら進んでいくことを覚悟してやっていくしかない。

○以上の意見を踏まえた廃炉等積立金の取戻しに関する計画の作成方針案の修正については、委員長一任とし、取りまとめ後に公表することとした。

2. 福島第一原子力発電所の状況について

東京電力から、福島第一原子力発電所の状況について、陸側遮水壁等の汚染水対策の進捗、3号機の燃料取り出しカバー設置等の1～3号機の使用済燃料プールからの燃料取り出しに向けた準備状況の進捗、3号機のミュオン測定等各号機の内部調査・各種分析状況等の報告があった。

3. その他

NDF事務局から、以下の事項等について説明があった。

- NDF 廃炉支援部門の最近の活動実績
- 廃炉等技術委員会等の主要スケジュール

以 上